

ジャパンナレッジを活用したレポート作成法

社会問題の調査における利用法 —「食品ロス」を課題にした事例—

データベースは単に知りたいことを調べるばかりがその用途ではありません。うまく活用すれば、レポートや論文を書くための着想を得て、新たな認識の枠組みを導く“発想支援ツール”としても利用できます。ここでは大学で出された課題を例に、辞書・事典・雑誌・叢書などを一括検索できるデータベース「ジャパンナレッジ」を使ったレポート作成法を見ていきましょう。

ジャパンナレッジを使ったレポート作成法の概略

- ① 概要・通説
定義等を知る 知識の基礎を作る……「見出し検索」、関連項目、参考文献を活用
- ② 「全文検索」でさらなる
関係性をあぶり出す 他の関連情報との関係をつかむ……「全文検索」を活用
- ③ 関連性をまとめ、
関係マップを作る 関連情報をもとに関係マップを作る…情報の可視化
- ④ テーマを絞り、
アウトラインを作る 他の情報源を参照する… ①～③ の情報をさらに充実させる
- ⑤ 実際にレポートを
書いてみる 調べながら考え、考えながら調べる…必要に応じて再調査

鉄則：信頼できる「良い」情報から開始する

レポートを書く行為は、試験問題のように知識の記憶力が問われるものではなく、主体的に問題を発見し、問いかけ、テーマを設定して、自らの言葉で解決に向けた提案を行うことです。

ネット上で容易に情報が入手でき、生成 AI サービスに問えば、何らかの回答をくれる時代。一見、便利に思えますが、別の意味で私たちに新たな困難をもたらします。入手した情報の根拠・真贋を見極める眼力を持ち合わせているか、私たちが厳しく問われるようになるからです。

学術世界の「学びの旅路」を始めた皆さんは、デジタル情報の乱気流に呑み込まれないよう、着実に鑑識眼を磨き、情報活用の手さばきを覚えねばなりません。「学びの旅路」には鉄則があります。「信頼性の高い、良い情報源から調査に分け入る」「得られた情報群を起点に、対象テーマについて俯瞰的に頭の整理をする」ことです。「信頼性の高い情報源」のベースキャンプとして最適なツールが、「ジャパンナレッジ」(以下、JK)です。有償だからこそ得られる確かな情報、厳選された情報の宝庫、JK を活用したレポート作成の基本作業を体験しましょう。

通常、レポートを作成するにあたり、多くの人が経験する“とまどい”は、次のようなことです。

1. 何から始めたらいいのかわからない。
2. 調べたい物事や事柄のイメージをうまく言葉(キーワード)にできない。
3. 言葉(キーワード)を見つけ、検索で情報は得たものの、その内容・特性を評価できず、使い方がわからない。
4. 得た情報からテーマを俯瞰的に捉え、そこからトピックを絞り込む視点の設定が難しい。

上記の“とまどい”の解消に向けて、事例を使いながら JK の利用法を考えてみます。

テーマ設定、トピックの切り出し法

最近の物価高は、社会に深刻な影響を与えています。なかでも食品・食材の高騰は市民生活を脅かす問題で、連日メディア報道を賑わしています。その文脈で「食品ロス」への対応が声高に叫ばれますが、この問題をテーマに設定してトピックを絞り、レポートを書くという仮定のもと、実際に検索をしてみましょう。

<課題>

「食品ロス」の問題群を整理し、自らの視点で具体的なテーマ・トピックを絞り込み、有効な解決法を提案せよ。

課題は、通常は漠然とした問いの形になることが多いので、いかに独自の視点でテーマを絞り、トピックを切り出すか、その技能が課題での評価の対象となります。

①概要・通説、定義等を知る

最初に意識すべきは、課題の概要や定義、通説を押さえることです。課題対象の全体をつかんでおかなければ、テーマを絞り、トピックを切り出していく過程で、見つけた個々の事項の位置づけ（重要性、他事項との関係性）ができません。「既に概要など知っている」との思いこみは禁物です。確認の意味でも、JKで“食品ロス”を調査しましょう。

さっそく検索を始めたいのですが、その前に、留意事項が2点あります。

1つ目は、「見出し」で検索する意味と「全文」で検索する意味の違いです。「見出し検索」の場合、調査事項＝「食品ロス」そのものを調べるのに対し、「全文」検索の場合は、他の「見出し」項目の解説記述中に「食品ロス」が含まれるものが検索できます。これにより、食品ロス問題が、他のどのような分野・領域と関係があり、つながっているのかを発見でき、全体的、俯瞰的に調査することが可能になります。

2つ目は、ヒットした情報の「情報源の特性」に目を凝らすことです。概要を網羅的に解説記述する「百科」、事項の定義や要点を簡潔に解説する「辞典」・「用語・情報」類など、JKの「検索コンテンツ」から検索対象を選ぶ際には、コンテンツ種別ごとの編集目的や機能特性を理解しておく必要があります。

では、基本検索の「見出し」を選び、キーワード“食品ロス”を入力してみましょう（図1参照）。

JKが収録するデータベースで、数件の「見出し」項

目が表示されます。百科事典の「日本大百科全書」、国語辞典の「デジタル大辞泉」、時事用語事典の「現代用語の基礎知識」に解説があることを確認してください。

このように一括検索ができるため、辞書・事典をひとつひとつめくる労を省力化できる、JKの良さがわかります。複数の辞書・事典の機能と特性を理解して、解説記述の比較・対照をしつつ利用していくと、知識を整理するのに有効です。

①-a 解説記述を読む

「日本大百科全書」の<食品ロス>をクリックすると、1,000字程度の詳細な解説記述を読むことができます。定義の解説後に、日本国内の食品ロスの状況、世界との比較、食品ロスの系統、原因の列挙、関連法律、国と地方自治体との関係等、きれいに整理してくれています。まさに、最小限の記述で俯瞰的にこの問題を記述し、整理していると言えるでしょう。

国語辞典である「デジタル大辞泉」では、実に簡潔な定義解説を確認できます。定義だけでなく、[補説]で、この問題の統計数値を調査するうえで欠かせない代表的な「食品ロス統計調査」の存在を記して、重要な情報源を教えてください。

時事用語を解説する「現代用語の基礎知識」でも、同様に簡潔な説明記述で、特に国内の食品ロス状況や対策状況も伝え、<消費期限/賞味期限>も参考にするように誘導してくれます。画面右の「関連項目」も、様々な連環を予感させます。

これだけでも、即座に関連知識の確認ができて手間が省けるのも、JKの強みです。

辞書と事典では、編集意図が異なります。とにかく簡略に理解したい場合は「辞書」、詳しく概要を知り、学術的な解説が欲しい場合は「事典」を。それぞれの特性を理解し、自分の置かれた状況に応じて、「判断」「評価」を加えながら使い分けてみてください。

また、同じ「事典」類でも、独自の編集方針により、各々解説の重点箇所が異なり、記述の濃淡があります。可能であれば「日本大百科全書」だけでなく、他の百



図 1. 検索コンテンツを選び、「食品ロス」の見出し検索を行う。

科事典（JK の追加コンテンツ「世界大百科事典」等）も、契約されていれば、記述内容の比較・対照ができ、頭の整理を行うことが可能です。

① - b 関連項目、参考文献の参照

関連項目についても目を配りましょう。「日本大百科全書」の「食品ロス」の項目では、画面の右下にある「関連項目」が、参照を促す他の項目に導いてくれます（図 2 参照）。<恵方巻き>、<賞味期限>を見ると、節分を過ぎて大量に売れ残った恵方巻の破棄のニュースが記憶によみがえります。<国連食糧農業機関>を見れば、これが国際問題であることも予測できます。

さらに、上部には<食品ロス>の前後項目として、<食品保存料>、<食品リサイクル法>、<食品ロス削減推進法>など、気になる項目の存在が見て取れます。

また、「デジタル大辞泉」の右欄の前後項目を見て、“食品”を接頭辞とする項目がどのくらいあるのかにも興味が惹かれます。<食品流通構造改善促進機構>は、食品ロスの改善に関与する組織・団体の存在にも気づかせてくれます。



図 2. 「日本大百科全書」<食品ロス>の前後項目と関連項目を参照する。

② 「全文検索」でさらに関係性をあぶり出す

もうひとつ意識してほしいことがあります。調査事項を「見出し検索」するだけで満足するのではなく、対象事項が他の思いもよらない事項とどうつながっているか、より広い関係性を発見することです。ここで「全文検索」の登場です。

「食品ロス」を事象の定義・概要だけに限定して調査するなら誰でもできます。しかし、「食品ロス」を他のどの分野・領域と結びつけて考察できるのか。アプロー

チの切り口にどのような観点があるのか。さらに掘り下げて調査しなければなりません。

「全文検索」で“食品ロス”と入れましょう。すると、より多くの項目がヒットします。画面に表示される見出しには<食品ロス>ではない項目があることに気づくはずですが。

画面の最初の方は、<食品ロス>という見出しが並びます。ところが、「会社四季報」に取り上げられている株式会社の名前や「現代用語の基礎知識」の「セブン-イレブン労働問題【2020】[ニュースのおさらい]>、「日本大百科全書」の「フードバンク>、「日経キーワード 2025-2026」の「アップサイクル>、そして雑誌「週刊エコノミスト」の「コメ不足>等の関連記事にもヒットしています。これは何なのでしょう。

実は「食品ロス」そのものの説明項目とは別に、他の見出しの解説本文で「食品ロス」の文字列が含まれれば、その見出し項目を表示してくれるのです。

JK のコンテンツ情報は信頼性のある凝縮された記述情報です。「見出し検索」での「関連項目」以外に、「食品ロス」がどのような事項に関係しているのかを調べるために、さらに詳しく関連事項を広げ、より俯瞰的に眺めれば、トピック探しや切り口の方向性も見えてくるはずですが。

「会社四季報」でヒットしている会社名からは、「食品ロス」削減に関わって、個別企業の具体的な努力を調査し、比較レポートにする可能性が拓けます。「現代用語の基礎知識」の「てまえどり【2023】[世相語]>からは食品販売の現場における消費者啓発活動が問題解決の糸口になること、「日経キーワード 2025-2026」の「テーマ③ 国土・環境><アップサイクル>では、売れ残り余剰品の廃棄物の再加工により、デザイン性や機能性の付加価値を高め、新たな商品に生まれ変わらせる活動が食品分野を中心に存在することを確認できます。

「週刊エコノミスト」の「コメ不足」の記事では、コメ不足を中心に最新の食品ロス問題の現状が整理されています。項目「書評 話題の本」を見ると、執筆者の井出留美氏が『私たちは何を捨てているのか』（ちくま新書）を刊行しており、最初に読むべき概説書にも気づかせてくれます。また「現代用語の基礎知識」の「2018 から 2019 へ【2019】[食]>の記述からは、井出氏が食品ロス問題を全国的に注目させた人物で、食生活ジャーナリスト大賞を受賞している事実もわかります（2025 年 10 月時点）。

このように全文検索でヒットした項目を丁寧に読み解いていくと、単に「食品ロス」とは何かを知るだけでなく、「食品ロス」をめぐる様々な事象の連環が見えてくるわけです。

③ 関連性をまとめ、関係マップを作る

こうして、「食品ロスと流通構造」、「食品ロスと企業努力」、「食品ロスと啓発活動」、「食品ロスとリサイク

ル」、「食品ロス削減と法律」……と、多彩な視点を導きだせると思います。

関連する情報を集めたら、ノートやメモに書き出して、マインドマップに代表される関係マップを作成し、自分なりの整理をしましょう。

検索で得た情報を整理しつつ読み、ノートを取って可視化すれば、皆さんの「認識の網の目」がより深まります。初動調査や探求に向けて特定の対象に関する基礎的なアプローチに、JK はとても役立つのです。

④テーマを絞り、アウトラインを作る

整理した情報やキーワードをもとに、他の情報源を探索して、さらにテーマを追跡します。

NII 論文情報ナビゲータ「CiNii」や国立国会図書館「NDL サーチ」、同館デジタルコレクション、そして図書館の蔵書検索などを使って、情報をさらに充実させれば、テーマ設定やトピックの絞り込みが徐々にできていきます。

国政課題なので、国の政策動向や対策を把握するのに国立国会図書館デジタルコレクションで検索します。例えば、「食品ロス」「対策」と入れて検索してみます。すると、「食品ロス対策の現状と課題」という文献を発見でき、ウェブ上で読めます。同館の発行物『調査と情報』の記事であり、専門家が国会議員に重要テーマを調査して報告するレポートです。タイトルの「現状と課題」の文字列は重要です。該当テーマを俯瞰的に調査した報告であると期待できるでしょう。目次をみれば、日本の現状だけでなく、世界各国の状況も解説しており、世界的な比較研究の着想も浮かんできます。特定分野の研究動向を記述するレビューと呼ばれるタイプの文献です。この種の文献は俯瞰的な記述がなされるので、他のテーマを調査する際にも、調査対象のキーワードに「現状と課題」のフレーズを追加入力すると効果的です。

また、大学生御用達の NII の「CiNii」で、「食品ロス」の研究文献も検索しましょう。おびただしい数の論文を発見することが可能です。JK で基本事項を確認し、検索で関連事項をメモしてあれば、検索結果を画面で見ても、追加のキーワードを加えるなどして、より核心に迫る、絞り込んだ検索ができるはず。 「食品ロス」「AI」とか「食品ロス」「アップサイクル」といった具合です。また、ヒットした論文の抄録記述も参照しながら、さらなるキーワードを拾い、認識を深め、レポートの仮構成を考えていくのです。いろいろな候補が浮かぶはず。

例えば、次のような案はどうでしょうか。

【タイトル】食品ロス削減に向けた AI 活用

1. 食品ロスの現状と ICT の導入
2. AI を活用したロス削減事例の分析
3. 特に効果を発揮する流通管理面
4. 小売り現場への AI 浸透方策の提言

各章ごとに、調査で得たキーワードをもとに、さらに参照・引用すべき論文などを検索・調査して、執筆をしていけばよいのです。

ここまでの作業は、例えば、夜間に星座を見るのと同じやり方だと言えます。星雲状に広がる宇宙に星を起点に「切れ目」を入れ、実体はないのに、これはオリオン座、さそり座として取り出しています。星雲状に広がる情報・知識の宇宙から、自分なりの視点と方法で「切れ目」を入れ、独自の星座にして取り出す。その最初のヒントが得られ、対象への認識が深まるにつれ、さらに深い情報・知識を獲得するために立ち戻るツール。これが JK と言えるでしょう。

⑤実際にレポートを書いてみる

いよいよ仮の章立てに従って、レポートを作成する作業になります。各章について、より詳しい調査を実施し、得られた情報・知識は丸呑みにせず、批判的に参照しながら、自分の考えを固めて言葉にしていきます。

調査の過程で、章立ての順序を入れ替え、組み直しが生じるのは通常のこと、めげる必要はありません。調べながら考え、考えながら調べる。そして頭を整理しながら記述する。レポート作成はこの作業の繰り返しです。

その際、とても大切なことがあります。それは、参考にしたり、引用したりした文献や情報の出所をきちんと書いて示すこと。すなわち参考文献を列挙する、引用文献の注をつける、ということです。

何を根拠に自分はこう考えたのか、その典拠となる情報を示すことは最低限のルールです。その理由は、あなたが何も参照せず、ひとりよがりの考えでレポートを書いたわけではないことを示すため、レポートを読んだ人があなたの考えた道筋を再検証するため、また先人の研究や報告に対して敬意を表するためです。

他人の研究や報告を参考にし、それを利用するのは、レポート作成における必須作業ですが、引用情報をきちんと記さないのはルール違反となります。その点をよく注意しましょう。

(2026年2月)

※検索結果や表示内容は、ご利用機関の契約内容によって異なります。